

静岡県

令和5年2月21日

読書活動だより.73

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



ネットワークで 読書推進

静岡県読書推進運動協議会理事
静岡県立中央図書館長
柴 雅 房

近年、本をめぐる環境は大きく変化しています。その一つは、書店の閉店が相次いでいることです。全国の書店数はこの10年で3割減少したといいますが、県内も例外ではありません。その背景としては、コロナ禍で拍車のかかった書籍のオンライン販売や電子書籍の普及のほか、読書離れも指摘されています。

書籍のオンライン販売や電子書籍は、手軽に目当ての本を購入でき、保管スペースがいらないなどのメリットがあります。一方で書店には書架を眺める中で、新たな本との出会いがあったり、時代の流行や世相を感じたりする楽しみがあります。地方出版コーナーを見ると、書店が地域文化を支えていることを改めて感じます。

本をめぐる環境変化としてもう一つ注目されるのは、市民が持ち寄った本を提供する「まちライブラリー」や私設図書館、小規模ながら店主が吟味した書籍を並べた個人書店の広がりです。こうした取り組みは本との出会いのみならず、本を通じて人と人とのつながりをもたらすもので、本の新たな可能性を示しています。

この1年、県内図書館は、書店やまちライブラリーなどと連携した事業を進めてきました。

今年度で10回を迎えた「静岡書店大賞」は静岡県内の書店員と図書館員による投票の結果選ばれたものであり、各書店では特設コーナーで受賞作品を大いにPRし、販売促進に役立てています。

昨年10月に開催された「ブックフェスタしずおか」は県内でまちライブラリーを展開する一般社団法人トリナスの主催事業として実施されましたが、期間中、県内図書館も関連イベントを実施して事業を盛り上げました。

両イベントとも書店、図書館、まちライブラリーのほか、出版社、取次店、作家など本にかかわる人々が幅広く協力しています。

このほか単独館としても、町内4カ所の書店と連携した清水町立図書館の取り組みも注目されています。

書店が元気であること、まちライブラリーなどの新たな取組が広がっていくことは、豊かな読書環境を保障することにつながります。今後も、本にかかわる人々のネットワークづくりを積極的に推進していきたいと思えます。

《内容紹介（もくじ）》

◎巻頭言…………… 1

静岡県読書推進運動協議会理事 柴 雅房

◎令和4年度 優良読書グループ紹介…………… 2～3

★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

音読グループ「つくし」(函南町)

★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

原里中学校読み聞かせボランティア(御殿場市)

あさはたお話の会(静岡市)

さくらんぼ(島田市)

お話しどんぐり(川根本町)

◎静岡県図書館大会 第2分科会報告…………… 3

◎静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告… 4

◎静岡県読書推進運動協議会 推薦図書…………… 4

令和4年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【音読グループ「つくし」(函南町)】

函南町ボランティア連絡協議会に属し活動している音読グループ「つくし」は、朗読を学んだり、子ども達へ読み聞かせをしたり、個人で施設訪問をしていた者が、志を一つに集まり、平成18年に設立されました。現在、20代から90代のメンバー17名で月一回の定例会を行い、活動の確認や情報交換、練習などを行っています。勉強のための個人発表も毎月行い、意見を交わしています。また、所蔵の本・大型絵本・紙芝居などを「つくし文庫」として公開しています。図書館、町内小中学校、福祉施設8か所、地域サロンや行事に何って朗読や語り、紙芝居、歌、わらべ歌、手遊び、なぞなぞ、バルーンアートなどを参加者と一緒に行っていました。コロナ禍で今までの活動ができなくなりましたが、その中でできることを行ってきました。嬉しいことに図書館お話し会、小中学校の読み聞かせ、施設訪問が再開され、今まで以上に感謝を持ち、心を込めて活動しています。また、リモート訪問という形にもチャレンジし、新たな勉強の機会にもなっています。心に響く名作や土地の民話、大切なものが込められた本、それを私たちが媒介となり丁寧に読んで伝えたい、感じてもらいたいと思っております。これからも、より良い活動を楽しみながら続けていくために、メンバー全員で力を合わせ邁進してまいります。



静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【原里中学校読み聞かせボランティア(御殿場市)】

原里中学校読み聞かせボランティアは、平成16年に小学校で読み聞かせをしていたボランティアが、中学生にも「本の面白さや大切さを伝えたい」という思いで発足し、原里中学校での読み聞かせをスタートしました。以来18年間、メンバーを変えながら、この思いを繋いできました。

現在は、保護者やOGだけでなく、地域の有志などを含め計16名で活動しており、年間8回の朝読書の時間をいただき、朗読や絵本の読み聞かせ、ブックトークなどを行っています。

私たちは、子ども達が生涯に渡って本に興味をもってもらえるように、これからも活動が続けていきたいと思っております。



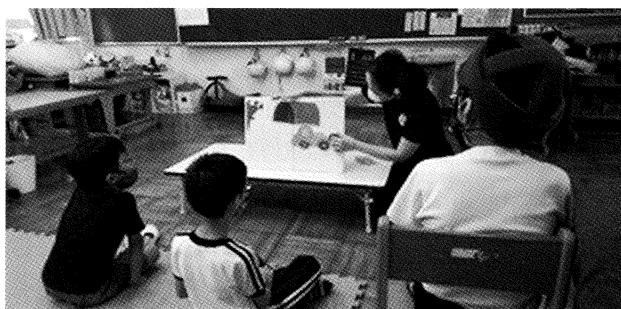
【あさはたお話の会(静岡市)】

「あさはたお話の会」は、静岡市立中央図書館麻機分館で絵本の読み聞かせを行っているグループです。平成21年に発足し、現在は8名が活動しています。図書館のおはなし会は2人一組で担当し、昔話、科学絵本、手遊び、わらべうたなど、各担当の得意分野を生かしたプログラムで実施しています。木の実や野菜など実物を見せたり、音や香りを感じてもらったり、参加者に楽しんでもらえるような工夫もしています。メンバーは学区の小学校、中学校、特別支援学校での読み聞かせ活動にも積極的に参加しています。こどもたちの「絵本楽しかったよ。また読んでね。」のことが嬉しくて、今度はどんな本を読もうかと毎回楽しく活動を行っています。



【さくらんぼ(島田市)】

27年前、母親学級で一緒になったメンバーが、「地域に読み聞かせの場を」という想いから、平成7年に発足したのが「さくらんぼ」です。メンバーは15人。活動内容は、図書館や近隣の幼稚園・保育園、特別支援学校でのおはなし会をはじめ、図書館主催の「おはなしマラソン」に参加し、子供たちとおはなしの場を楽しんでいます。その他、公民館事業「元気キッズ」での読み聞かせや絵本の中のお菓子作り、市内のコミュニティFM「FM島田」で絵本の紹介等を行っています。また、毎月発行の「さくらんぼだより」は、メンバーの個性が光る発信ツールとなっています。メンバー同士の情報共有を大事にし、おはなしの楽しさや声の温かさを子供たちに伝え続けていきたいと思っています。



【お話しどんぐり(川根本町)】

お話しどんぐりは、絵本の読みきかせグループとして平成6年に発足し、現在は18名で活動しています。主な活動は、町内の小中学校、保育園、高齢者施設等での読みきかせです。近年は町外の保育園等からも依頼をいただくようになり、より多くの方にお話を楽しんでもらえるよう活動しています。

地域に伝わる民話の朗読や紙芝居を取り入れることで、民話を次の世代へ引き継いで行けたらとも思っています。また、自作の紙芝居や朗読劇、パネルシアターや人形劇の作製にも力を入れ、お話の魅力が伝わるようにメンバーで工夫しています。

活動を通してたくさんの方と触れ合うことができ、私たちにとっても楽しい時間となっています。今後も、新たな作品作りに力を入れていきたいと思っています。



令和4年度静岡県図書館大会第2分科会参加報告

講師 中瀬ゆかり氏

(株式会社新潮社 出版部部長)

3年ぶりに集合開催となった今年度の静岡県図書館大会標記分科会では、作家の良き伴侶であると同時に、読者の代弁者でもある編集者として長年ご活躍されている中瀬ゆかり氏にご講演いただきました。

ご講演では、父親が大変な読書家であり、子ども時代には児童用の世界文学全集を読み込み、多くの作品に親しんできたことや、生まれ育った和歌山の田辺市は公共図書館が充実しており、夏休みには毎日のように通った思い出などから始まり、中学・高校にかけて読んだ星新一、太宰治、松本清張らの作品の版元のほとんどが新潮社だったために、新潮社に入社したことなど、編集者までの道程をお話してくださいました。また、入社後は、白洲正子、北杜夫、野坂昭如、田辺聖子各氏と交わり、特に白洲氏には日常の贅沢を教えていただいたとのこと。人生の大きな転機となった白川道からは、作家の誇りと表裏一体の孤独と哀しみを、修羅を歩ん



だ男の横顔から学ばせてもらったと述べられました。白川氏は自宅での突然死でしたが、書斎には「世の中には、心を焦がす人間と、そうでない人間がいる。この小説は心を焦がす人にだけ読んでもらいたい」と万年筆で走り書きが遺されていたそうです。昨今、電子書籍が話題となっていますが、発光体からの情報は短期で記憶から消えてしまい、非発光体である紙の情報は、長く記憶に残るという研究結果もあるそうで、村上春樹氏の「心の穴は埋められない。心の穴に物語や音楽、映画を投げ入れなさい」という言葉をかみしめたい、という言葉でご講演を閉められました。

令和4年度静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告

演 題 「耳をすます」

～子どもと本の架け橋として～

講 師 斎藤 惇夫 氏

去る令和4年10月29日(土)に、元福音館書店編集者であり児童文学者である斎藤惇夫氏をお招きして、標記研修会を行いました。この研修会は例年、「文化の丘フェスタ」の一環として静岡県立中央図書館との主催、静岡県読書推進協議会共催で行っており、今年度はさらに「ブックフェスタしずおか」の一環としての事業となりました。

講師の斎藤氏は現在、埼玉県浦和市の麗和幼稚園園長として、子どもたちと接する日々を過ごされております。

ご講演では、小学校4年から卒業まで在籍された新潟県長岡市の長岡附属小学校の学校図書館、編集者時代に訪れた新潟の公共図書館、恩師の家庭文庫であるどんぐり文庫、カナダのトロント公共図書館とニューヨーク公共図書館について、エピソードを交えながらお話しくださいました。これらの図書館に共通しているのは、より子どもに近い立場から、子どもの本とは何か、を常に問い続けていること、一冊一冊を子どもに手渡しなが



ら、未来の読書につなげていく姿勢、生きるとは喜びなのだという事を子どもたちが感じられる選書など、レベルの高さを感じられたとのことでした。また、そのような読書環境の中で過ごす子どもたちは、借りること、選ぶことの喜びとともに、それらの作品から人生は驚きと輝きに満ちているのだ、ということを確認するのだと述べられました。

児童文学作家として、すぐれた編集者として、多くの児童書に携わってきたご経歴に裏打ちされたお話は、参加者に多くの示唆をいただいた一日だったと思います。

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

シニア世代へおすすめする本

『80歳の壁』

和田 秀樹／著(幻冬舎 2022.3)

『わたしのなつかしい一冊』

池澤 夏樹／編(毎日新聞出版 2021.8)

『親子の法則』

人生の悩みが消える「親捨て」のススメ』

三凜 さとし／著(KADOKAWA 2022.3)

若い人へおすすめする本

『ぼくらの戦争なんだぜ』

高橋 源一郎／著(朝日新聞出版 2022.8)

『大絶滅は、また起きるのか?』

高橋 瑞樹／著(岩波書店 2022.6)

『香君』

上橋 菜穂子／著(文藝春秋 2022.3)